

令和5年度 文化庁日本語教育大会（Web大会） オンラインワークショップ

「日本語教育の参照枠」を活用した コースデザインを考える

趣 旨

令和3年10月に「日本語教育の参照枠」が取りまとめられて以来、日本語教育機関の間では、「日本語教育の参照枠」を活用したコースデザインの取組が始まりつつあります。その中で、「日本語教育の参照枠」で示された考え方や、コースデザインの実際についての関心が年々高まりを見せています。

そこで、今年度は、「日本語教育の参照枠」の言語教育観、全体的な尺度における6レベルの特徴、そして言語能力記述文（Can do）を活用したコースデザインについて、オンラインワークショップの形式で学ぶことができる動画と資料を作成しました。

本動画と資料を通じて、多くの方々が「日本語教育の参照枠」を活用したコースデザインの実際について理解を深め、それぞれの教育現場に合ったコースデザインについて考えるきっかけとなれば幸いです。

趣旨説明

ワークショップ1. 「日本語教育の参照枠」について理解する

ワークショップ2. 「日本語教育の参照枠」を活用した日本語教育コースデザイン

ワークショップ3. カリキュラムについて考える

まとめ・ふりかえり

進行・ワークショップ2

関崎 友愛 氏

日本語サービスYOU&I代表
埼玉県地域日本語教育コーディネーター
大阪外国語大学大学院言語社会研究科修士
（言語文化学）
専門は日本語教育、社会言語学
国際交流基金日本語国際センター専任講師を経て
2021年より「日本語サービスYOU&I」代表



ワークショップ1

佐藤 智照 氏

広島大学大学院教育学研究科博士（教育学）
専門は日本語教育学、認知心理学。
国際交流基金日本語国際センター専任講師、政策研究
大学院大学非常勤講師等を経て現職
文化庁「日本語教育の参照枠」の活用に関するワー
キンググループ協力者、「生活Can do」の作成及び検
証補助業務においてアドバイザーなどを歴任



ワークショップ3

伊藤 秀明 氏

筑波大学人文社会系准教授

筑波大学人文社会科学研究科 博士（国際日本研究）
国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員
筑波大学人文社会系助教を経て、2021年11月より
現職
専門は日本語教育学、日本語教育方法論
「生活Can do」の作成及び検証補助業務において、
有識者委員会委員などを歴任



主催

文化庁国語課

